

労災死傷者 13万人超す

19年ぶり、コロナ影響か

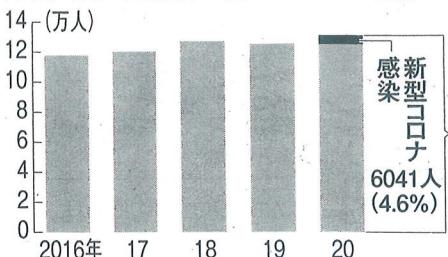
職場で新型コロナウイルスに感染する人が増え、2

020年の労働災害の死傷者数が19年ぶりに13万人を超えた。厚生労働省は22年までに死傷者数を17年比で5%以上減らす目標を立てていたが「達成が困難な

状況になつていて」という。

厚生労働省によると、20年に労災で4日以上休業したり、死亡したりした人の総数は13万1156人。前年よりも5545人増えた。13万人台は、01年(13万3598人)以来だ。

労働災害の死傷者が新型コロナで増加した



昨年、新型コロナ感染の労災死傷者が6041人出た影響が大きい。業種別にみると、医療機関などの医療保健業と、社会福祉施設の従事者が計4561人でその8割近くを占めた。厚労省は22年までに、17年の死傷者数(12万460人)から5%以上減らす目標だった。だが、コロナ感染による労災申請は今年に入つても収束せず、達成が難しくなっている。

厚労省は、感染経路がはつきりしなくとも、仕事が原因とみられる場合は柔軟に労災と認定する方針を示している。労災と認められれば、治療費は全額が労災保険から支給され、仕事を休まなければいけない場合、一定期間の平均賃金の8割が原則補償される。

(山本恭介)

2021年5月13日朝日新聞 朝刊